



みどり



98号 『尿路感染症 その2』

2016年5月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

先月は「病路感染症」の総論，排尿のしくみなどについてお話ししました。今回は各尿路感染症の症状や治療についてお話しします。

まず尿路感染症の分類について簡単に復習です。尿路感染症は基礎疾患の有無や発症の経過によって分類されます（表1）。

表1：尿路感染症の分類

- ① 単純性尿路感染…基礎疾患なく発症。 *…後述
- ② 複雑性尿路感染…基礎疾患がある状態で発症

単純性尿路感染の症状と治療

単純性尿路感染の代表的なものとしては，下記のA,Bがあげられます。

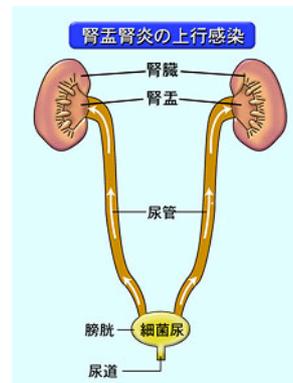
A：単純性膀胱炎

尿道から大腸菌やブドウ球菌が尿道に入り込むことが原因です。女性なら誰もが一度は罹患したことがある，頻度の高い疾患です。女性に多い理由は，解剖学的に女性の尿道は短く，簡単に細菌が膀胱に到達するからです。

主症状は，排尿時痛（尿をしている最中の下腹部の痛み），頻尿（排尿の回数が多い），尿混濁（尿が濁って臭いも強くなる）です。血尿や残尿感が出現することも多いです。水分を十分にとり，抗生物質を3~7日間内服すれば比較的速やかに治癒します。

B：単純性腎盂腎炎

「腎盂」は，腎臓で作られた尿が尿管にでていく場所（図1）で，その場所に感染が生じると「腎盂腎炎」と呼ばれます。病原体が尿道から膀胱，尿管を逆流して発症する上行性感染（図1）と，他の感染部位から血液によって細菌が運ばれる血行性感染がありますが，前者の場合がほとんどです。やはり大腸菌が起炎菌の70~80%を占めています。



【図1：腎盂の位置と腎盂腎炎の上行性感染】

膀胱から細菌尿が逆行して腎盂に到達する

（日本医師会 HP <https://www.med.or.jp/forest/index.html> より）

膀胱炎の症状に加えて，38~40℃の高熱と腰痛（腎臓は腹部の臓器の中でも背中に近いほうに位置しているため）が主症状です。熱は37℃以下には下がらないものの1日の中で1℃以上上下する「弛張熱」となることが多くなります。

重症化すると血管内に細菌が入り込んで重篤な状態になる「敗血症」をおこすこともあります。

診察では腎臓がある場所を背中の上から軽く叩くと痛みが生じる「肋骨脊椎角部叩打痛」が特徴です。

治療は抗生物質の使用です。高熱で体力の消耗が著しいときや、血液検査で炎症反応が高値の場合は入院して点滴で抗生物質を投与します。

複雑性尿路感染の基礎疾患

代表的なものとしては、A. 神経因性膀胱 B. 前立腺肥大があげられます。

A. 神経因性膀胱

前号でも少しだけご説明しましたが、排尿を制御している神経系（脳や脊髄、膀胱や尿道を制御している末梢神経）の障害でおきる、膀胱と尿道の障害のことです。

頻尿、尿失禁、尿意切迫などの尿を溜めること（畜尿）の障害による症状と、排尿困難、尿勢減弱など尿を排出すること（排尿）の障害による症状が出現します。

原因としては表2のような疾患が挙げられます。治療は症状に応じた薬物療法が中心です。

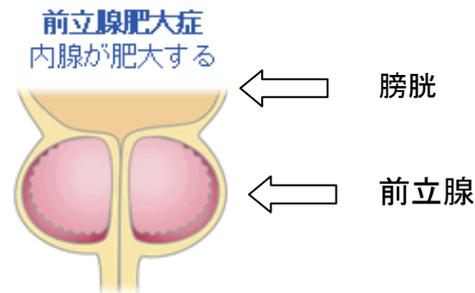
表2：神経因性膀胱の代表的な原因

- ・ 脳梗塞、脳出血
- ・ 脊髄損傷、椎間板ヘルニア
- ・ 糖尿病による自律神経障害
- ・ 下腹部臓器（膀胱や直腸、子宮など）手術後の末梢神経障害

B. 前立腺肥大

前立腺は精子を保護する前立腺液を作るための臓器です。直腸と恥骨の間にあって膀胱の出口で尿道を取り囲んでいるため（図2）、前立腺が肥大すると尿道が圧迫されて、排尿に関する症状が出現します。神経因性膀胱と同様に

畜尿の障害と排尿の障害が出現します。前立腺肥大の頻度は年齢とともに高くなり、60歳では半数以上の人にみられますが、排尿に関連する症状を示すかどうかは個人で異なります。



【図2：前立腺肥大】

左右の前立腺が肥大して中央の尿道が狭くなっている
(アステラス製薬 <http://www.hainyou.com/m/bph/index.html> より)

複雑性尿路感染の症状と治療

下記のA, Bが複雑性尿路感染の代表です。

A. 複雑性膀胱炎

症状は単純性膀胱炎と同様に頻尿や排尿時痛ですが、単純性膀胱炎よりも軽く、無症状のこともあります。起炎菌は大腸菌の他にも緑膿菌や腸球菌などが検出されることがあります。治りにくく再発や再燃を繰り返しやすいのですが、漫然と抗生物質を使用すると耐性菌の出現につながるため、発熱時や腎盂腎炎に進行したときに限って抗生物質を使用する場合があります。

B. 複雑性腎盂腎炎

症状は軽度の腰痛、微熱などです。難治性で次第に腎機能が低下していく可能性もあり、注意が必要です。

* * * * *

どのタイプの尿路感染でも、水分摂取の減少や尿意の我慢は危険因子になります。水分をしっかりとり、適度な間隔でお手洗いにいくことを心がけてください。

(文責：池田祥恵)